初等体育科教育法（体育）　　鈴木直樹

授業概要

講義を通して授業づくりをする上での基盤を構築したうえで，実技を通しながら，各運動領域の特性を理解し，実践上の視点を明らかにしていく。その上で，実際に指導案を作成し，討議を行い，体育の指導についての理解を深めていく。また，近年，反省的実践家としての教師が強く求められているように，常に授業改善しながら，よりよい授業づくりに向けて努力ができる資質を養う必要がある。これが，いわゆる「授業の省察力」ということになる。この力を身につける為に，模擬授業を通し，授業分析を演習する。

授業計画

第１回	小学校体育の方向性について体育の歴史的変遷を踏まえながら理解する。
第２回	小学校の運動領域編成と学びの系統性について理解する。
第３回	運動のおもしろさや魅力について実技を通して理解する。
第４回	学習指導案の書き方について理解し，作成する。（1）
第５回	体育における様々な学習形態について方法的側面と組織側面から知り，その長所と短所を理解する。
第６回	体育における子どもの視点に立った学習過程について理解する。
第７回	体育の授業づくりの手順を理解し，教材研究の進め方を理解する。
第８回	学習指導案の書き方について理解し，作成する。（2） 現在、求められる体育の学習評価の在り方について理解する。
第９回	「体つくり運動」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
第 10 回	「器械運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
第 11 回	「陸上運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
第 12 回	模擬授業の振り返りを行い，指導の改善点について明確にする。
第 13 回	「ボール運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
第 14 回	「表現運動系」の模擬授業及び授業分析の演習を行う。
第 15 回	「保健」の模擬授業及び、授業のまとめのワークショップを行う。
第 16 回	レポートにより学習内容の理解度を評価する。

到達目標

本講義のテーマは，体育授業づくりの視点とその活用である。また，本講義では，体育授業実践に触れながら自らの身体を問い，体育における，教師の児童と関わる素地を育成することが目的である。その為，次の各項目を学習の目標とする。

1） 体育の学習観を捉えなおし，授業づくりの基盤を確立することができる。
2） 体育授業実践上の教師としての構えを身につけ，教材研究を通し，カリキュラム論的な視点をもった授業づくりができる。
3） 体育授業づくりの視点を明確にし，単元計画を立案し，指導案の作成ができる。

履修上の注意

予習復習を行いながら理解を深め，授業に臨んでください。

予習復習

教科書を使用して予習と復習を行う。

評価方法

前半の講義では，毎時間、学習内容に関するミニレポート作成を行う。また，後半の演習を中心とした講義では，これまでの成果を生かして教材研究を行い、学習指導案を提出させるとともに，模擬授業実践・授業観察・分析の演習を行う。それらを総合して，授業の最終講義で,ワークショップを行い，日々の学習における成果と期末レポートにより総合的に成績評価を行う。

ミニレポート（20%）授業観察・授業分析（20%）授業分析（20%）学習指導案（20%）期末レポート（20%）

出席回数が授業全体の 2/3 未満である場合には欠席とし，評価の対象としない。

テキスト

鈴木直樹・梅澤秋久・鈴木聡・松本大輔（２０１３）学び手の視点に立った小学校体育の授業づくり．大学教育出版